



専教寺報

浄土真宗本願寺派 一乗山 専教寺 題字 大橋曾水
〒714-1201 岡山県小田郡矢掛町矢掛2033
TEL.0866-82-0488
URL.<https://www.senkyoji.com/>
E-Mail.senkyoji@senkyoji.com



愛されて 思われて

住職 釋龍生

テレビを見てみると、児童虐待で子どもが死亡するというニュースが、後を絶たない。その内容は、どれも親の工ゴや育児疲れと簡単に言葉で片付けられない惨憺たるものである。成長の途上である子どもという弱者の逃げ場を、瓶に閉じ込め栓をするかのようにいとも簡単に奪う。そして自分の支配下に置き、肉体的にも精神的にも完膚無きまでに痛めつけ、果てに命を奪う。虐待を受ける子どもの気持ちを考えて、筆舌に尽くしがたく、子ども

を持つ私としては目や耳を覆いたくなるものばかりである。

以前、ネグレクトという児童虐待をテーマとした桐野夏生氏の「砂に埋もれる犬」を読んだ。ネグレクトは、

社会に巣立つ上で必要になる順応性や協調性を育む機会を奪う。ネグレクトを受けた子どもは、正常な社会に触れた時、育った文化が

違うと感じるほど、また犯罪行為と日常生活での仕事の区別が全くつかないといった、独自の危うい世界を心の

中に構築してしまうのかもしれない、と感じた。

明川哲也氏の絵本

「ぼく、あいつきたよ」には、虐待を受ける子どもの視点で、物語が描かれている。この絵本の中で、印象に残る描写がある。それは、

おかあさんが

おこるときは、きつと

ぼくが わるいのです。

おかあさんを

おこらせてしまうのは

ぼくなのです。

ぼくが わるいのです。

また、

ぼくは、ぶたれながら、

おかあさんの

そばに いた。

おかあさんの

なみだが おちたのは、

ぼくの ほっぺだった

んだ。

子どもは、生んでくれた親が人生の支えで

あり全てである。虐待を受ける子どもは、外の社会では、決して自分の親の悪口や虐待行為を公言せず、むしろ親の優しさを強調するという傾向があるという。親から、殴られようが蹴られようが、それでも人生の支えであり全てである親を一番大事に思い、愛されたいと願う続けるのである。

どのような事情や原因があるとしても、子どもの人権を不当に奪う児童虐待という負の連鎖は、社会生活を営む個々が責任を持ち、社会全体で確実に断ち切るよう解決していかなければならない。子どもが人生の全てを賭けて親を愛し、思い続け

る気持ちにしっかりと応えるために。

私たちが、私たちのこ

と。そして阿弥陀さまは、そのままでいいよ、ありのままのあなたをそのまま救うよ、と南無阿弥陀

具足の凡夫だからこそ、阿弥陀さまの愛すべき救いのめあてとなるのである。阿弥陀さまは、私たちを救うために、易しいことこそ尊くと、お念仏ひとつを選び取られた。

において、愛し、思い続けてくれる存在がある。その阿弥陀さまという仏さまは、自らが用意される浄土に私たちを救って、同じ仏さまとするという願いを誓って、叶えてくださる。その主な願いは、四十八の願いの中の十八番目の願い、

私に決して悟りを開きません。と。そして阿弥陀さまは、そのままでいいよ、ありのままのあなたをそのまま救うよ、と南無阿弥陀仏という救いのはたらきとなつて、私たちの体に染み入るように、私たちに寄り添い、愛し、思い続けてくださっている。「歎異抄」に煩惱具足の凡夫という言葉が出てくるが、この言葉は他に向けられた言葉ではない。

今年三年ぶりに永代経法要をおつとめする。阿弥陀さまの救いのはたらきにより、命終わるとすぐにお浄土に参り、仏さまとなられた先達やご先祖を偲んで、また常に

私が仏になる時、全ての人が、私の願いを心から信じて、私の国に生まれたいと願い、わずか十回でも念仏して、もし生まれることができないようなら、

阿弥陀さまが、私たち全ての生きとし生けるものに向けられた言葉である。煩惱具足の凡夫だからこそ、この世でいかなる努力をしても仏となることはできない。しかし煩惱

先祖を偲んで、また常に



挿絵 内村 壽美子

私たちに届けられる阿弥陀さまのお救いに感謝して、久しぶりにもに、なんまんだぶつとお念仏をいただきたい。

読み聞かせをきっかけに

坊守 佐々木ひろみ

ら、時間があるの台所用品が力を合わせて、ネズミを懲らしめるときには、絵本を讀み聞かせしてきまめる、という話です。

「コロナ禍によるいろいろな制限が少なくなり、今年春は、暖かい気候に合わせて多くの人が出外を楽しんでいるように見えます。専教寺でも、三年ぶりに永代経法要の門信徒参拝を再開します。従来より時間は短くなりますが、ご門徒の方々久しぶりにお会いして、一緒に参りできると思うと、とてもうれい

です。さて、最近考えさせられたことについて書いてみようかと思えます。息子が0歳の時から、時間があるの台所用品が力を合わせて、ネズミを懲らしめるときには、絵本を讀み聞かせしてきまめる、という話です。今年2月に、こども園で親子読書週間という取組がありました。それをきっかけに、その週間が終わっても、寝る前には毎日一冊読むようになりました。その日に読んだ本を、息子が本棚から選んでくれます。

先日、息子がある絵本を選びました。そのあらすじは、次のようなものです。台所にあつたシャガイモがネズミにかじられてしまいます。それを知ったシャガイモの友達の野菜たちと、ポウルや鍋など

「だって、ネズミさんに『やめて』って言うたらやめたかもしれないのに、みんなで集まってネズミさんだけにいじわるしてるんだ。こんなのダメだよ！」

私は、「悪いことをした者が懲らしめられる話」と疑うことなく

思っていました。息子がしてみれば、「みんな一人でやっつけるいけない話」だったのです。これには、こんな見方もあるのかと驚きました。

以前、本山の新聞、

本願寺新報で『仏説阿彌陀經』について書かれていた連載を読ませていただくことがありました。『仏説阿彌陀經』の一節に、

青色青光 黄色黄光

赤色赤光 白色白光

とあります。阿彌陀さまのお浄土にさく蓮の花のありさまを語られた言葉だそうです。そこに咲く青い色の花には青い光がさして青く

輝き、黄色い花には黄色い光、赤い花には赤い光、白い花には白い光がさして、それぞれが光り輝き、自らの色そのままに光輝いて咲くことが尊いということとです。

読み聞かせをした絵本は、そこまで深い意味はなかったのかも知れませんが、「ネズミは悪者」と思い込みで読んでいた私自身は、

「生きていくためにシャ

ガイモを食べたネズミ」

「本当は居心地のよい台所にずっといたかったネズミ」、また「仕返しをした野菜たち」から「友達思いのニンジン、タマネギ」・・・

いろいろな角度から登場人物を見ると、こゝろに気付かされました。それぞれが一生懸命で、それぞれが自分を輝かせていると思うと、物事を一面から見ると、物につけずに、それぞれの輝きに気付いていきいと感じました。

元旦会 令和5年1月1日 (日)



合掌・礼拝

衆徒 佐々木龍三

保育園の園児が別院にお参りしてくれませう。

私は、今年一月から、京都市左京区にある本願寺北山別院に勤めています。

私が園児に話す機会があり、合掌・礼拝のお話をしました。

「阿弥陀さまは、いつでも、どこでも一緒にいてくださる仏さまです。うれしいときには、一緒に喜んでくださり、悲しいときには、一緒に悲しんでくださいます。ナモアミダブツは、阿弥陀さまありがとうございます、というお礼の言葉です。ナモアミダブツと称えて美しい姿で合掌・礼拝すると阿弥陀さまも喜んでくださいますよ。それでは、皆さんに質問です。仏さまに何をやる以外に、合掌・礼拝するときはありますか？」

「どの自然の恵み、それらすべてに感謝して、いただきます。ごちそうさまと合掌・礼拝することを話しました。」

「御聖水」と名付けられた湧水があります。親鸞聖人が二十九歳のとき、比叡山を下山され京都の六角堂に参籠されました。その道中、清らかな水が湧き出ていた北山の地で、喉を潤し、お身体を拭い、休息されたと言われています。この親鸞聖人のご遺徳を偲んで「御聖水」と名付けられ、この別院は親鸞聖人のご旧跡になっています。

「阿弥陀さまは、いつでも、どこでも一緒にいてくださる仏さまです。うれしいときには、一緒に喜んでくださり、悲しいときには、一緒に悲しんでくださいます。ナモアミダブツは、阿弥陀さまありがとうございます、というお礼の言葉です。ナモアミダブツと称えて美しい姿で合掌・礼拝すると阿弥陀さまも喜んでくださいますよ。それでは、皆さんに質問です。仏さまに何をやる以外に、合掌・礼拝するときはありますか？」

「牛さんや豚さんのいのちをいたいただくから」と答えてくれました。よく理解しているなあ、と感心したことでした。その後、私は、食べ物となってくれた動植物は、もっと生きたいと思っていたかもしれない、そんな動植物のいのちをいただいて私たちは生きていくこと、食事が提供されるまでに携わってください。たくさんの人、水や太陽など

合掌・礼拝は、他への敬い、ご恩などへの感謝を表わす意味があります。皆さんは、日頃のくい合掌・礼拝されていますか。または、どれくらい「ありがとう」などの感謝の言葉を言われているでしょうか。

この別院の境内に保育園があります。毎月一回、礼拝するときはあります

園児には、「ナモアミダブツ」はお礼の言葉と話しましたが、「ナモアミダブツ」は、阿弥陀さまからの「我にまかせよ、必ず救う」という私への喚び声です。その喚び声に、私からは「阿弥陀さ

園があります。毎月一回、礼拝するときはあります

園児には、何をやる以外に、合掌・礼拝するときはありますか？」

園児には、何をやる以外に、合掌・礼拝するときはありますか？」

園児には、何をやる以外に、合掌・礼拝するときはありますか？」

まにおまかせします。あ
りがとうございます」と
感謝の思いで「ナモアミ
ダブツ」と称えます。先
立たれた大切な方々も阿
弥陀さまのお浄土で仏と
なって生まれ、いつも阿
弥陀さまと一緒に見守っ
てください、私が同じお
浄土で仏になることを願っ
てくださいっています。

日々、阿弥陀さまや仏
さまにお念仏して合掌・
礼拝する、お仏壇へのお
参りを大事にしていただ
けたらと、そのように思
います。

先日、冊子で、バスを
降車したおばあちゃんが、
出発したバスに向かって、
合掌・礼拝していたとい
う文章を読み、ハッとさ

せられました。周りには
私が思っている以上にお
陰様があり、当たり前にも
なっていて、あまりにも
気づけていないことに。

報恩講

令和4年11月27日(日)



3年ぶりに
おつとめいたします!!

4月23日に、当山では永代経法要をお勤めいたします

今年の永代経法要は4月23日(日)です。ぜひお参りいただいて、ともに「阿弥陀経」をご唱和して、仏さまになられた先達のご縁に遇わせていただくと同時に、お念仏のみ教をいただく私達が、社会をともに生きる上で本当に大事なことは何なのか、考える機縁にさせていただけたらと思います。(今年度は、コロナ禍のため、午後に短縮してお勤めいたします)

このたびのこのご縁は 初事と思うべし このたびのこのご縁は 我一人の為と思うべし
このたびのこのご縁は 今生最後と思うべし



臥龍松保存のための寄付をお願いします

臥龍松を維持管理するには
たくさんのお金がかかります。
矢掛町の重要文化財の保存に
ぜひともご協力下さい。

一口1,000円から受付けています。
1,000円ご寄付の方には臥龍松のポストカード
をプレゼント。お寺にご連絡下さい。



※この寄付はあくまで任意です。

専教寺からのお知らせ

境内清掃奉仕

4月9日(日) 午後1時30分～(約1時間)

永代経法要

4月23日(日) 午後1時～(午後12時30分～受付)

講師：広島県安芸高田市・福泉坊住職 福間 制意 師

